

プロジェクト研究IA 吉賀町ゼミ
まちづくり×社会教育

地域のおじさん取材し 魅力的に紹介する 冊子をつくる

担当教員 西嶋一泰

k-nishijima@u-shimane.ac.jp



担当教員



西嶋 一泰

にしじま かずひろ

1985年大分生まれ、東京育ち、民俗学研究者
専門は日本の祭り・民俗芸能・地域づくり

2016年から大田市地域おこし協力隊

- ・教育魅力化コーディネーター
- ・大田市山村留学センターの情報発信など

記事映像制作&リサーチ 西嶋ラボ代表

- ・フリーランスとしてライターや映像制作
- ・映像配信やWebイベントの運営設計
- ・ワークショップの設計・ファシリテーション

一社) しまね協力隊ネットワーク²理事

一社) マツリズム特別顧問

2021年 島根県立大学 地域政策学部 講師

公民館と連携



- ・ 受入先：小さな拠点ネットワーク研究所の檜谷邦茂さん、吉賀町の各公民館
- ・ 公民館が取り組む地域課題の解決に、学生たちが一緒に取り組む
- ・ 吉賀町をフィールドに2022年から活動

2022吉賀町ゼミ 軽トラモバイルハウスの作成 新たな高齢者サロンの提案



2023吉賀町ゼミ 旧蔵木中学校を生かしたイベント 蔵木ナイトの企画・実行



2024吉賀町ゼミ 2つの班に分かれて活動

蔵木班 旧蔵木中学校の活用のためのレゴワークショップ
六日市班 リヤカー屋台で地域の交流の場をつくる



それいけ！七日市のおじさんたち

おじコレ

吉賀町七日市おじさんコレクション

島根県吉賀町の七日市地区には
魅力的なおじさんたちがいる
島根県立大学の学生が取材した
おじさんたちの魅力を紹介！

島根県立大学 西嶋一泰ゼミ
吉賀町 七日市公民館
2025.8.1 発行

2025吉賀町ゼミ

吉賀町の魅力的な「おじさん」を
取材し、地元の中高生などに地域
に出るキッカケを作る冊子を制作

七日市公民館と連携

自分たちでアポと取材
自分たちで記事作成
自分たちでデザイン

岩代 おじさん 図鑑



2025吉賀町ゼミ

先行事例

福島県二本松市の地域おこし協力隊の有野真由美さんが制作した「岩代おじさん図鑑」を参考にする

一見して「何もない地域」でも、地域を楽しむユニークなおじさんたちを、遊び心たっぷりに紹介

そう、これは
人生の「ぼうけんのしょ」だ。

ガクセイ図鑑

吉賀町に通う島根県立大学の大学生紹介



島根県立大学の教員の西嶋一泰です！
2022年から吉賀町でゼミの活動をしています。
2025年前期では、七日市で地域の方を取材させていただき、冊子をつくることになりました。学生たちのつくったこの冊子の七日市バージョンを作ることができると嬉しいです。ぜひ取材にご協力お願いいたします！

2025吉賀町ゼミ

まずは学生たちが自分たちを互いに取材して紹介した冊子「ガクセイ図鑑」を作成。

インタビューをAI文字起こし



AIに文章構成を依頼



CANVAでデザイン・編集

油谷 佳映 あぶらたに かえ

出身 : 魚取県 八頭郡
 サークル : よさこいとBBS
 バイト : コーヒーショップKENと
 コメダ珈琲
 性格 : おっちょこちょい
 特技 : 体が柔らかい
 趣味 : 料理・編み物・音楽



等身大のわたし、今ここに

出身は魚取県の、山奥!!!!!!

町や村の集合体である郡で生まれ育った。「田舎といわれるけど、否定できない(笑)」彼女の地元は自然に囲まれたのどかな地域だが、冬になると大量の雪が積もる。彼女曰く「東北」



#サークルは2つ

よさこいとボランティアのBBSに所属中「よさこいは大学に入学する前から決めていたんです。書道パフォーマンスをやった経験もあって、体を動かすことがすきだったから。BBSは、今までやったことのないボランティア活動に挑戦したかった」と話す。

取材 安田美唯

#しなやかな体が私の武器!!

特技は「体が柔らかいこと!」中学時代から健康のために始めたストレッチがきっかけで、今でも柔軟性には自信あり。よさこいの演舞でも役に立っている。ところが、「怪我防止...にはあまりなっていないかも(笑)」

見た目からは想像することがむずかしドジっちな一面もかえさんの魅力である。



#もうすぐ20歳! お酒デビュー...

インタビューの終盤、「もうすぐ20歳になる」と少し照れくさそうに話してくれたかえさん。「誕生日にはおじいちゃんと一緒に飲む予定。楽しみです」ビールを一口は挑戦してみたいと前向きな姿勢。新たな経験に一步踏み出す、その姿勢がとてもかえさんらしい。

かえさんの話を聞いていると、「等身大であること」が一番の魅力なのだと感じる。

土本 晟豪 つちもと せいこう

出身 : 広島県
 サークル : 陸上部
 バイト : すき家
 性格 : カリスマ性 共感性が高い
 (性格診断より)
 特技 : 早起き
 趣味 : 映画鑑賞



特集 地域と自然に向き合う ——土本晟豪さんの街づくりへの思い

広島県出身の土本晟豪(つちもとせいこう)さんは現在、魚川県立大学地域づくりコースで学ぶ大学生です。陸上競技やアルバイト、映画鑑賞など様々な活動に取り組む彼の素顔と、これから吉賀町で取り組むゼミ活動への意気込みを伺いました。

#陸上とアルバイト、充実の大学生活

大学では陸上競技部に所属し、日々練習に励んでいます。「本格的に始めたのは大学からですが、小学生の頃はクラブチームに入っていて、中学でも少しやっていました。」と話すように、陸上には幼い頃から親しんできました。一方、生活面では「すき家」でアルバイトをしており、学業・部活・仕事の両立でも取り組んでいます

#特技は「早起き」! 野球部で培った生活力

土本さんの特技は、「早起き」。中学・高校時代は野球部に所属し、早朝の練習や試合を通して、自然と早起きが得意になったそうです。「朝から動くとに抵抗がないのは、野球部での経験が大きいですね」と話してくれました。

#地域づくりコースを選んだ理由

土本さんが地域づくりコースを選んだ背景には、「地域活動やボランティアに関心があった」という思いがあります。実際に地域に出て活動できるカリキュラムに魅力を感じ、入学を決意しました。

#吉賀町で取り組みたいこと

これからゼミの一環で訪れる吉賀町については、自然にあふれた地域というイメージを持っていると言います。「フィールドワークを通して、吉賀町の自然を活かした活動が出来たらと思っています。また、山間部にある地域なので、個性豊かなおじさんたちとの交流も楽しみにしています。そういった方々とたくさん触れ合いながら学びを深めていきたいです。」



取材 武馬良樹



5/24-25 七日市合宿

- ・ 地域見学 ・ カレー交流会
- ・ お祭り参加 ・ 取材アポ取り



6/28-29 七日市合宿

- ・ 取材 ・ 次の取材アポ取り
- ・ 運動会参加

7/5-6 七日市合宿

- ・ 取材 ・ 記事作成

宿泊は公民館に雑魚寝
入浴は道の駅の温泉ゆらら

杉崎 兌治さん Sugisaki Etsuzi ～チェーンソーと作り上げるETSUZIワールド～



生年：1941年1月12日 85歳
出身：柿木村
趣味：海釣り（波止でアジを釣る）

▶よく言われる第一印象
変なおじさん

▶よく居る場所
山、田んぼ、家

▶お仕事何してる／してた？
・JAに勤務されていた
・現在は農業をされている

自然の中に生きる、手作りモンスター 俺の今したいこと

昭和16年に柿木村に生まれた兌治さんは、23歳で婿養子に入り、七日市に移住しました。JAで働いたのち、現在は田んぼや山での暮らしや創作活動を楽しんでいる活力にあふれた方です。そんな兌治さんは愛妻家で奥さんと、今回の取材も一緒に答えてくださいました。

ものづくりは「寂しさ」から

杉崎さんの創作の原点は、定年後に感じた「寂しさ」。そこで始めたのが、ものづくりでした。例えば、七福神の鹿鹿をチェーンソー1台で製作し、地元の方の間で有名なスポットになっています。その他にも丸太の六角小屋や、庭の池にさすら橋を完成させたなど、地元の自然素材を活かした創作に情熱を注いできました。

100本もの梅を植えた梅林もその一つで、「登山客はいないけど、梅はすごいことになってね」と振り返ります。



最近では、「時計台」の製作に取り組みされており、杉崎さんのものづくりへの情熱は尽きません。またものづくりのほかにも、旅する蝶と呼ばれる「アサギマダラ」に魅せられ、藤若葉を植え、アサギマダラが訪れるのを楽しみにしているとのこと。自然との交わりは、ただの観察ではなく「遊び」として楽しんでいるようです。

設計図も相談もいらない。俺が全部つくる！

杉崎さんの創作には、図面やメモは一切ありません。「頭の中で考えてるから、何にも書かない」と語るように、六角小屋や今後作る予定の「時計台」も、すべて頭の中で組み上がっています。農地の段差をなくして陸地したり、杉の木を見ながら構想を練ったりと、自らの手と頭を使って形にしていく姿は、まさに「創造の達人」。奥さんは、「気が付いたら何か出来上がっている」と嬉しそうに話してくださいました。そして、「誰かのためではなく、自分が楽しからやっている」ときっぱり言い切る姿に、純粋な創作の喜びが表れていました。

↑六角小屋（背景）

七日市公民館の課題であった 地域と学校を繋ぐキッカケとして おじさんを紹介する冊子制作

実際にできた冊子は七日市で 配布され、地域でも話題になる 私も取材してほしい との声もいただくほどの反響

学生は訪問前は想像もできなかった 吉賀町の人々の暮らしに カルチャーショックを受ける

齋藤 盛彦 Saito Morihiko

➡ 吉賀町のお助けマン！困ったら3110番にお電話を！



データ

生年：1952年（72歳）
出身：吉賀町藤野
趣味：海釣り（兄や友人と！）

よく言われる第一印象

▶おとなしそう

よく居る場所

▶齋藤自動車、自宅

お仕事何してる／してた？

▶自動車屋さん

▶保育所理事長…



おじパワーで今日も駆けまわる！

島根県の小さな端っこの集落で、72歳の齋藤盛彦さんは今日も地域の人々の「困った！」に応えるべく、農業機械の修理から草刈り、地域法人の運営まで行っています。「困ったら盛さんに電話すればなんとかなる」と言われるほど地域から信頼厚い盛さんです。

多忙でも教育熱心

多忙なか中、七光保育所の理事長もこなす齋藤さん。年上の子が年下の子を思いやり、年下の子は年上の子から学ぶといった、まるでひとつの大きな家族のように生活をする異年齢児交流保育を実施。また子どもたちの健やかな成長と、ご家庭の安心のために病後児保育の体制も作りしました。

田舎は何もない…
ならみんなできればよい
じゃないか!!

By もりひこ



6

有田 忍 Arita Shinobu

➡ "モノがないなら作ればいい"～職人・有田 忍



データ

生年：1953年（72歳）
出身：吉賀町六日市
趣味：なし（遊びで木工）

よく言われる第一印象

▶こだわりがありそう

よく居る場所

▶自宅の作業場

お仕事何してた？

▶アパレル系の仕事

「ないなら作ればいい」から始まった

65歳で地元に戻ってきた有田さん。最初はお仕事で使った家具のDIYから、家にあったデニムをリメイクし始めたのがきっかけ。やがて木工にハマり、作るモノがどんどん増えていきました。図面は使わず、ネットの画像から着想を得て感覚で組み立てていくスタイルは、まさに職人芸。



家の中も、外も、自分の手で

作業場の中の棚や扉だけでなく、外の空間もすべて手づくり。材料のためにブランコ、滑り台、ハンモック、ガーデンテーブルを製作。猫車を一輪から二輪に改造したり、室外機を木でカバーしたり、日常の中の「ちょっと不便」をアイデアと手しごとで解決して行っています。

作ることが、毎日のリズムになる

「次に作るものを決めるのが楽しい」、使うために作る、暮らしの中で役立つものを増やす、という感覚が、有田さんの生活そのものを動かしています。

時間	内容
5:00	起床&朝ごはん&散歩
9:00	作業
12:00	昼食&お昼寝
13:30	再び作業
16:00	入浴&ハンモックで夕飯
17:30	夕ご飯準備&夕ご飯
21:00	就寝

工夫と節約のなかに、豊かさがある

材料はもらいものや廃材が中心。「お金をかけないほうが、面白い」と話す有田さん。ものづくりの工夫のプロセスにこそ暮らしの豊かさを感しました

飽きたら
次を作りゃ
いい。



有田 忍

7

山田 幸則さん やまだ ゆきのり

⇒ ユニークさ満点！みんなを巻き込む宴会番長

データ

生年：1952年
出身：吉賀町真田地区
趣味：パチンコ

▶よく言われる第一印象
面白い ユニーク 飲み好き

▶よく居る場所

▶お仕事何してる／してた？
定年まで吉賀町役場にいました



やどみ ゆきのぶ 矢富 幸信さん

⇒ 野菜の数だけネタがある！しゃべくり農人！

データ

生年：1952年
出身：吉賀町真田地区
趣味：野菜づくり(ナス、トマト、スイカ、オクラ、落花生…)

▶よく言われる第一印象
真面目

▶よく居る場所
ごんごんじいのイベント会場

▶お仕事何してる／してた？
定年まで吉賀町役場にいました



ゆるキャラ愛が地域を変える！

「よそのゆるキャラは役場が作っとるじや。うちは民間がみんなて寄って作った。これが自慢なんよ。」

家にもってては何も変わらない。何か作って活動しようという思いから始まり、その言葉が今日も地域を少しづつ動かしている。

町のイベントにはほとんど顔を出し、祭りや盆踊り、道の駅の催し物に、時には広島まで遠征することもある。訪れた場所では子どもたちが喜び笑顔になるためやっぱりやめられないと2人は語る。少子高齢化が進む中で、ごんごんじいの存在はみんなの元気の象徴になっているのだろう。



2人の会話から何度も聞こえてきたのは「恩返し」という言葉。

都会から地元に戻ってきて、今度は地域に恩返しをしたいと思いつく様々な活動を始めた。W会長として支え合いながら地元を支え続けている。

「物を売って儲ける気はさらさらしないんですよ。でもゆるキャラを通して町を元気にする。それが達成できれば十分じゃ。」そんな活動も、もう8年目になる。



行動を起こすのは、誰かのために

吉賀町ふるさと応援大使
ごんごんじい

趣味：喋る、耕す、飲む！ 全部本気です！！！！！！

話題が趣味に移ると、和やかな笑い声が響いた。

「パチンコ？ギャンブル？いやいや、もう破産しかけたことあるからな(笑)」と山田さんが冗談を言う一方で、矢富さんは畑と真剣勝負の真っ最中だという。「トマトにきゅうり、スイカにピーマン…落花生にトウモロコシ、オクラもあるで。」

畑で採れた野菜は、仲間や近所に配るのが楽しみだそう。

仲良し同級生コンビが地域を盛り上げる！
W会長は生涯現役！健康のフルコース中！！！！



※後継者求む！

ただ、ひとつ心残りは後継者探しだという。「誰かが引き継いでくれんといけんけえのお。」笑顔で募集を呼びかける姿に、この地域の未来がまだまだ面白くなる予感しかない。





地域のおじさんたちをユーモラスに紹介する学生制作の冊子「おじコレ」完成！【島根県立大学】

8月23日（土）七日市公民館「なないろ食堂」にて地域へ贈呈

公立大学法人島根県立大学 2025年8月20日 10時00分



島根県立大学（浜田キャンパス）地域政策学部・西嶋一泰ゼミは、吉賀町の七日市公民館と連携し、地域で活躍するユニークな「おじさん」たちを紹介する冊子「おじコレ」（吉賀町七日市おじさんコレクション地域を楽しくするフリーペーパー）を制作しました。

完成した冊子は2,000部を印刷し、2025年8月23日（土）に七日市公民館で開かれる「なないろ食堂」にて、地域の皆さまに贈呈いたします。今後は七日市公民館のほか、島根県立大学などで配布する予定です。



冊子おじコレ2000部発行
8月に七日市を再訪し
地域の方や子どもたちに配布
公民館・小学校・中学校・高校
で配布をおこなった。

またPR TIMESにて
情報発信を行い各媒体に掲載
冊子おじコレのPDFを配布



2025年9月18日放映
日本海テレビ「ONE」にて
「おじコレ」特集

約7分間、内容の紹介
学生の声、地域の声などを
取り上げる

地域でのインタビュー調査も
デザインや設計次第で
形あるアウトプットをでき
エンターテインメント性をもって
波及効果を生みうる

